



水無瀬離宮移築復元庭園（みなせりきゅういちくふくげんていえん）

平成26年6月から同年8月まで発掘調査を実施した西浦門前遺跡では、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮の庭園跡と考えられる遺構が見つかりました。

この庭園跡は、水を池に注ぐための施設である遣水跡、遣水から注がれる水を溜める小さな上の池、上の池の水があふれ、滝となって下の池へと流れ落ちる滝口である滝組の石、滝から流れ落ちる水を受ける大きな下の池、そして上の池に沿って並べられた景石（庭石）から構成されており、水無瀬離宮に幾度となく訪れた藤原定家の日記である『明月記』には、発掘調査で検出した遺構と非常によく似た光景が記されています。



西浦門前遺跡庭園遺構検出状況（南から）

この庭園遺構は、島本町の歴史を考えるうえで、非常に重要なものであるため、「西浦門前遺跡庭園移築プロジェクト」と銘打ち、平成27年8月から同年10月にかけて、住民の皆様とともに、この遺構の一部を歴史文化資料館の敷地内に移築復元しました。



上の池（西から）



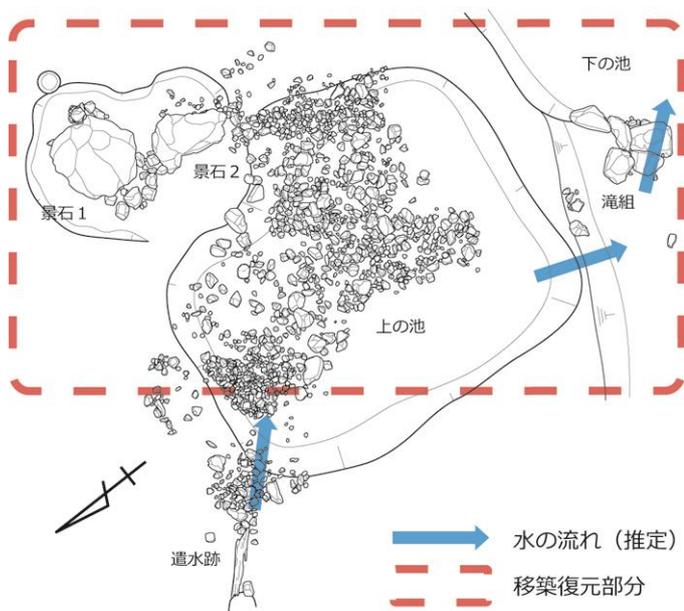
「西浦門前遺跡庭園移築プロジェクト」実施状況



景石1（東から）



景石2（東から）



西浦門前遺跡庭園遺構平面図



滝組（南から）